Viator

VOL. 020

復活祭おめでとうございます！

ウイリアム神父

聖週間は私たちキリスト者にとって、実に特別な性質を持つものでした。聖週間は終わり，それはもはや指折り数えてきた時ではありません。聖週間という時期は実に貴重であったことから、誰しも今や過ぎ去ってしまったことを残念に思っているほどです。しかし、聖週間とは心を思い巡らす期間であり、この時は私たちの心を比べようもない神の業へと向けるものなのです。すなわち、私たちを愛するために十字架につけられて死におもむかれた神へと思いを寄せるときなのです。そしてイエスの復活は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（ マタイ 28：20）というイエスの約束を保証するもので、神は私たちとともに御国を築きたいと思われているがために、このような言葉を残されたのです。

聖ヴィアトール北白川教会の信者のみなさま、復活祭がみなさまにとって使徒ヨハネのような信仰を実践する時となりますように。使徒ヨハネは実に空になった墓を「見て、信じた」（ヨハネ 20：8）のです。空の墓は私たちの日々の暮らしの道すがらにあるもので、信仰のまなざしのみがあがないの十字架を浮かび上がらせるのです。今や、十字架という死の象徴であったものがさまざまな色にいろどられた躍動にあふれる生命になったのです。

復活祭おめでとうございます。

復活祭にあたって

ブラザー･ヘルマン・バムニ

教会の皆様、キリストの復活祭、おめでとうございます！！！

本日は全世界でキリスト教の信者が、イエス・キリストの復活のお祝いをしています。復活祭は信者としての私たちの人生で一番重要なお祝いです。今日のお祝いを準備するために、40 日のあいだ分かち合いや、断食、お祈りなどいろいろな訓練を受けました。しかし、この訓練は復活祭の日に終わるものではなく、私たちの日々の訓練であり、日常生活で行われます。

私たちはごミサに参加するたびにキリストの死と復活を思い出します。確かに、キリストの復活という神秘の意味は、洗礼を受ける前のカテキズムの時に勉強しました。しかし信徒信条、すなわちキリストは苦しみを受け、十字架につけられ、三日目に死者のうちから復活されたことを覚えるだけではなく、自分の心の中で、その意味を理解するのが一番大事だと思います。この素晴らしい神秘は、人によって心に留めるメッセージの意味が違うと思います。では、一般的にブルキナファソにおいてキリストの復活は、どのように祝うでしょうか。そして現在の復活祭の意味について私の考えを紹介したいと思います。

まず、ブルキナファソでは、四旬節の間、神父様や、修道者、信者などがさまざまな活動を行っています。例えば毎年の四旬節の金曜日、教会や、基礎共同体などで十字架の道行きが行なわれます。またカトリックの学校でもそれぞれイベントが行なわれます。ワガドゥーグーにある聖ヴィアトール学園では毎週金曜日の授業の後の 5 時 15 分から十字架の道行きが始まります。これは学校の信者のために行われるのですが、隣人の信者や、生徒を迎えに来てくれる保護者も参加します。いつも大勢の人が参加します。あるいは、ミサの後では教会のさまざまなグループがいろいろな巡礼を行います。これは、良い四旬節を過ごすためです。

次に、四旬節の時には、きちんと復活祭の準備を行えるために、色々な黙想会があります。信者もゆるしの秘跡を受けます。多くの信者が来ますので大変です。そして、復活徹夜祭のときに大人の洗礼志願者は洗礼を受けます。洗礼を受ける方々は様々な宗教からカトリックに改宗します。そのミサに参加する人はキリスト教の信者だけではなく、イスラム教や、伝統的な宗教などの方々も、洗礼を受ける家族のメンバーを支えるためにくるのです。

復活徹夜祭の御ミサは楽しいもので歌いながら踊ります。ごミサでは、洗礼を受ける人数によって、復活徹夜祭の時間が長くなります。ある教会の御ミサは、夜10時から午前1時過ぎまでになる場合もあります。さらにはごミサの後、朝までお祝いをする場合もあります。次の日、ごミサの後、洗礼を受けた人の家族のほとんどがおおぜいやって来るお客さんのために、一生懸命に食事やお酒などを準備しておきます。また、来てくれるお客様は招待されていなくても、ご馳走になることがよくあります。復活祭という喜びの日だから、問題はないのです。また、お金がなければ、洗礼のお祝いを無理にする必要がありません。大切なことは、共同体と共に復活の喜びを分かち合うことです。

また、イスラム教の代表は、クリスマスのように、復活祭のごミサにも参加してくれます。ミサの時に、イスラム教徒の代表がいらっしゃいます。またこの反対にイスラム教のラマダンの時にはカトリックの大司教様や、神父様、修道者などがお祈りに参加します。これは、キリスト教とイスラム教の人とイスラム教の人との間の信頼にもとづく人間関係のおかげです。このような人間関係のおかげで、ブルキナファソではさまざまな宗教の人々が平和に暮らしています。

さらに復活祭のメッセージは、すべての人々の期待にかなうものです。復活祭は、希望を伝えます。ブルキナファソでは、生活に必要な物を満足に持ってない人が多いのですが、彼らは福音の希望に耳を傾け、心を喜ばせ、力を持ち、笑顔で前向きに生きるようになるのです。「イエス・キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順でした」（フィリピ 2：6-8）。満足のゆく生活ができない人であっても、この連帯のメッセージを、やはり心に留め、幸せに生きることができるのです。復活祭を巡る様々な言葉は、皆さんの日常生活に関しているので、深く理解することができます。また、ブルキナ

ファソで一つの大事なことは、分かち合うことなのです。さまざまのカトリックのグループや、また信者などは、たとえ少なくても、それぞれの物や、お金などを集めて、貧しい人や、困っている人たちと分かち合います。しかし、このような活動をしている信者は減少しつつあります。

今日、四旬節は終わりましたが、四旬節のあいだ一生懸命に行なった様々な活動や訓練などは大事にするべきではないでしょうか。このような素晴らしい活動は、四旬節とともに終わるのですが、カトリック信徒としての訓練や活動などは終わることがありません。復活されたキリストの祝福に満たされて、聖霊と共に、力を尽くしましょう。力を尽くすためには、三つの四旬節の柱、すなわち断食、お祈り、分かち合いが必要だと思います。この三つの行ないを通じて、困っている人を助け、何よりも良い四旬節を過ごすことができるのです。この三つの柱は大切です。多くのカトリック教会では、強い信仰から毎日長いお祈りする信者たちが多くいますが、貧しい人や、孤児、未亡人などを愛して助ける人の数が減少しています。信仰は見えないものですが、ヤコブの手紙（2：14-17）を読めば、色々な信仰の側面が分かります。「私の兄弟達、自分は信仰を持っているというものがいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救う事が出来るでしょうか。もし、兄弟あるいは姉妹が、着るものもなくて、その日の食べ物にも事欠いている時、あなたの誰かが、彼に、『安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい』というだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。信仰もこれと同じです。行いを伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。」

カトリック信徒が努力を傾けるのは、四旬節と復活祭の時だけではありません。いつもイエス・キリストを模範とするために、隣人を助けるのです。とはいえ困っている隣人を助ける時に、お金や物のことだけを考えてはいけません。たとえお金や物を持っていなくとも一番大切なことは、その人のために祈ることです。たとえ小さな笑顔で挨拶しても、大きな影響を与えることができるのです。その人が困っていた主な理由は、自分が誰からも愛されていないと思っていたためであるかもしれません。その笑顔のおかげで、改めて幸せになるのではないでしょうか。現在のキリスト教徒は、神様の福音を述べ伝えているのでしょうが、お祈りと言葉だけで足りません。信仰を行ないとして表わしてこそ、より強い影響を与えることができるのではないでしょうか。もちろん、我々の力だけでは、何も出来ません。復活されたイエス・キリストに聖霊を願いましょう。

四旬節黙想会

２月２５日、四旬節第二主日のミサの後に四旬節黙想会がありました。ベリーニ神父様が途中休憩を挟んで１時間ほど講話をしてくださり、３０名ほどの信者が参加しました。

まず、そもそも黙想会とは、典礼そのものではなく、典礼の準備になるものだそうです。黙想会の講話は人間の言葉にすぎないけれども、日曜日のミサなどの典礼は言葉だけではなく恵みと癒やしをもたらす神の働きであり、しかもそれが信者としての教育にもなるから、何よりも日曜日のミサを大切にし休まないようにとのことでした。

講話の前半は詩編第１０章について。そこに出てくる「神に逆らう者」とは無神論者だけではないとのこと。それは、神が遠くにいて自分を見ていないと思っている人、だから何をしてもいいと考えて生きている人のことだそうです。日本には年末に忘年会があるが、それは「神は忘れる」と思っているようなもの。責任を忘れたり、約束を破ったり、人との関係を切ったりするのもそこから来るということです。「神に逆らう者」とはそういう生き方をしてもいいと思っている人のことで、私たち信者もそういうことがあったりするということでした。

けれども、私たちがそれで安心感を抱いているかというとそうではない。赤ちゃんがお母さんに見てもらえると安心するように、私たちは自分のことを誰かに知ってほしいという気持ちがあります。私たちは見られることで存在するということでした。

そして、祈りとは神に見られること。聖体礼拝で私たちがホスチアを見ていると思っても、神が私たちを見ており、神に見られることによって私たちは成長するということでした。信じることも神に覚えられ思われ見られること。私たちは教会に来ても互いに気づかなかったりするけれども、神は私たち一人ひとりを見ている。外側だけではなく、私の望み、失敗、誰にも言えない苦しみも神は見ていてくださるということ

です。だから、私たちは神のみ手に自分をゆだねることができる。「あなたはかならず御覧になって、御手に労苦と悩みを委ねる人を顧みてくださいます」「あなたにすべてをお任せします」。

福音書にはイエスのまなざしについては数十箇所に書かれているそうです。たとえば、「永遠の命を受け継ぐには…」と尋ねた金持ちの人をイエスは愛情を込めて（「慈しんで」）見たと書かれています。神が人になったのも、私たちを見るための目がほしかったからと言ってもいい。だから、イエスによって神に見られるのは私たちにとってとても大切ということでした。

ラルシュの家で有名なジャン・バニエの言葉の紹介もありました。人を愛するとは誰も気づいていないその人の美しさを見出して表現すること、神は私たちに対してそうするという言葉です。

後半は四旬節の教皇メッセージの解説でした。今年のメッセージは戦争や迫害のせいか暗い印象だそうです。ローマのコロセウム（初代教会の信者が多数殺された遺跡で、聖金曜日にパパ様の司式で十字架の道行きが行われる）でも前々日、殺されたキリスト者を記念する式があったとのこと。今の時代は、初代教会の時代よりもキリストのために殺される人が多いそうです。

続いて教皇メッセージのいくつかの点についてコメントがありました。

第一に、「恵みのとき」について。私たちは四旬節を宗教的に生きなければならないということでした。たとえば時間をかけたよい告解をすること。自分の心のどこに陰があり、イエスの恵みが自分のどんなことのために必要かを十分に調べるべきとのことでした。

第二に、「偽預言者」。「偽」とは、幸せであるために間違った道を教えるという意味で、こんにちでは、政治家や宗教者やマスコミが「偽預言者」でありうるということでした。

第三に、「冷えた心」。私たちはよく貧しい人に気づかずに通り過ぎるとのこと。今のパパ様は特に移民の問題に関心があるそうです。

第四に、以上の問題に対して「何をすべきか」。それに対してパパ様のメッセージは「祈り、施し、断食」を挙げています。「祈り」は、講話の前半にあったように、単に言葉を繰り返すことではなく、神の目の前に自分を置くこと。「施し」には、バザーのようにお金を集めるために不要なものを寄付するだけではなく、自分の痛みを伴う施しが必要と言われました。「断食」はダイエットではないので、人との分かち合いがなければならないということでした。パパ様は最近、聖テレジアを引用しながら、食べ物を減らす断食だけではなく、与えられたものを食べ自分の好き嫌いを人に知らせないという断食もあると話したそうです。

最後に、パパ様が勧める「主にささげる２４時間」（聖体礼拝とゆるしの秘跡）の取り組みの代わりに、当教会で毎火金夕方６時から３０分間行われる聖体礼拝に参加する勧めがありました。

黙想会の指導も告解を聞くのも本来はその教会の司祭でないほうが望ましいそうです。けれども、神父様の子どもの頃から現在に至るまでの実体験と広い見聞とユーモアを盛り込み、ラガネッラと呼ばれる楽器に似た小道具も使いながら、さまざまな大切なことを伺うことができました。神父様、本当にありがとうございました。

（広報部　記）

2018 年度活動方針

ウイリアム神父様より信者総会で、以下のテーマについて分かち合いを行って欲しいという提案を頂き、以下のように本年度の活動方針が決まりました。

互いに受け入れ尊重しあう美しい教会にするために、「新しい信者、洗礼志願者のフォローアップ」、「日曜日のミサに来られない方たちへの対応」、「若い年齢層に魅力的な教会にするための活動」を具体的に考え、実践していく

主任司祭

2018 年度　信者総会　議事録

日時：2018 年 2 月 18 日（日）11：15～12：30

於：教会ホール、参加者：約 35 人

司会：N. N、書記：K. S、M. H

主任司祭による開会の祈りとご挨拶

就任後、2 度目の信者総会となる。私たち一人一人は教会に対して無関心であってはならず、信者総会は信

者が発言する大事な機会である。互いに受け入れ尊重しあう美しい教会にするために、積極的な意見交換を求める（ウイリアム神父様）。

活動報告

Viator 19 号で各部会の活動報告を掲載しているので、そちらを参照のこと。

2017 年度会計報告

財務担当の H. N 氏より 2017 年度の会計報告があり、財務状況が厳しいことが報告された。

2017 年度会計監査報告

T. S 氏より会計監査報告があり、2017 年度会計報告は承認された。

2018 年度活動計画

いくつかのグループに分かれて、3 つのテーマについて分かち合い、議論が行われた。
（具体的な内容については後述）

2018 年度予算案

財務担当の H. N 氏より 2018 年度予算案が提出され承認された。特に、教会営繕に必要な予算の説明と、今後の教会会計の維持および将来の営繕に向けた積立金に関する説明があった。信者より、積極的な寄付の必要性を訴える必要性が提案された。また、現在は教会会計に営繕のための積立金は存在しないことが確認された。近い将来の消費税等の上昇も考え、早いうちに営繕を行うべきであるとの意見が出された。

その他

青年部の設置について報告された。
信者台帳にある総信者数、世帯数、住所不明の世帯数等が報告された。
収入の 3%とされる維持献金についての考え方の説明があった。
ウイリアム神父様より、灰の水曜日のミサの時間についてご説明があった。
ベリーニ神父様より、教会に重要なのは信仰であることを改めて確認するようにとのお言葉を頂いた。

閉会の祈り

ウイリアム神父様より閉会にあたってご挨拶があり、閉会の祈りを捧げ、閉会した。

2018 年度活動方針に向けた分かち合い

テーマ 1　「新しい信者、洗礼志願者のフォローアップ」

・新信者に対しては案内係の役割が大きく、積極的にコミュニケーションをとるようにするべき。コーヒーブレイクを利用してより積極的に声をかけるようにしたい。
・（3 つの課題共に関わる話であるが）ノウハウ以前の問題として、教会とは何か、ということをまず考えるべきである。役割のために教会に来るわけではない。
・新信者をフォローするためにはまず、周りに気を配ることが重要である。また、信仰で教会に来るように導くためには「学び」が必要であり、フォローする側の我々も霊的な学びが必要である。
・信者になったばかりの時に、周りの方に声をかけられてリラックスできた、との若者の意見があった。
・新信者に向けた窓口を設置する。少なくとも半年ぐらいは代夫・代母によるフォローが必要ではないか。
・コーヒーブレイクに神父様を交えてグループを作って会話できるようにする。教会に来て誰とも会話せず帰るというのでは淋しいだろう。

テーマ 2「日曜日のミサに来られない方たちへの対応」

・自分の子供に休息を与えるべきか、神様に会いに行くことを薦めるべきか、迷ってしまう。以前は青年部があり、小さな子供たちの相手をしてもらったりした。このような連携の中で若い世代を育てていくことが重要ではないか。
・受験や部活動などで教会から遠ざかってしまった子供たちにとって、教会での成人式は重要な位置づけにある。親からも背中を押してほしい。
・高齢者や施設に入っている方にも、典礼や広報誌をお送りするなどして、つながりを持つべきである。
・この教会は遠方から来ている方も多く、来られていない方を周りが把握しきれていない場合が多い。まずは、来られていない方を把握し近所の人を中心にサポートをしてみたらどうか。
・来られていない方を神父様と訪問していたこともあった。

テーマ 3「若い年齢層に魅力的な教会にするには」

・外の掲示板に教会に入りやすいような呼びかけをしたらどうか
・からしだねの会のバザーもきっかけになるのではな

いか。

・青年と高齢者との交わりの機会を作る。

編集後記

復活祭おめでとうございます。今年は桜が咲くのが早く、復活祭当日は満開になり、お花見日和でした。洗礼を受けられた方々もおめでとうございます。満開の桜に囲まれて迎えたこの日、素晴らしい思い出として、永遠に記憶に残ることでしょう。

四半世紀ほど前、私はアメリカに２年間留学しておりました。勉強が忙しいことにかこつけて、当時はあまり教会には行きませんでした。でも、１９９４年の復活祭のときは、母（カトリック信者）が遊びに来ていたこともあり、母と非信者の妻も一緒に、御ミサにあずかりました。当たり前のことではあるのですが、言語が違うだけで、ミサの中身は全く日本と同じことに感激しました。最初のｃが小文字の catholic は「普遍的な」という意味ですが、本当にカトリック教会は「聖なる普遍の教会」であることを、そのとき心から理解しました。

御ミサのあと、神父さまにご挨拶に行ったら、「日本語で“Happy Easter”はどう言うのですか」と尋ねられ、お教えしたところ、懸命に「復活祭おめでとうございます」と繰り返しておられたのを昨日のことのように思い出します。

アメリカでは、日本ではほとんど見ることがないユダヤ教の儀式も結構身近にありました。そのことを考えるにつけても、上に掲載されているブラザー・ヘルマンの文章は興味深いです。ブルキナファソではキリスト教とイスラム教の間に良い交流があるのですね。お互いの宗教を尊重する、ある宗教のお祝いごとには他の宗教も心からお祝いする、そういう伝統が世界中に広まってほしいと思っています。

ペトロ＝ラファエル

カトリック聖ヴィアトール北白川教会　2018 年 4 月 1 日発行
ホームページ：https://www.stviator-kcc.org/?